

浜田市・金城町・旭町・弥栄村

城下町浜田のシンボル 浜田城跡

浜田市殿町
＜指定＞県・史跡
浜田の市街地にある、小高い丘に残る城跡。1619年に初代浜田藩主・古田重治によって築城されてから、1866年、長州軍によって落城するまでの247年間、浜田藩の本拠地だった。当城は約55m四方の曲輪で囲まれ、三重櫓の天守があり、中腹には二の丸、三の丸もあったが、現在は当時の姿を残すこともなく、石垣を残すのみ。改修によって整備され、当時のまま残っているものは少ないが、税務署前から石段を登るコースは、当時の中門跡を見ることができ、二の丸には日清戦争で「死んでもラッパをはなさなかった」と言われる木口小平の像や、島村抱月の文学碑もある。春は桜の名所としても有名。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス10分
商工会議所前下車、徒歩10分

石見の前方後円墳の代表選手 周布古墳

浜田市治和町
＜指定＞国・史跡
周布川の西側の小高い丘にある前方後円墳。5世紀前後に造られたものと思われ、長さ約70mある、石見を代表する古墳の1つ。「おんぐる古墳」と呼ばれたり、外形がひょうたんに似ていることから「ひさご塚」とも呼ばれている。墳丘の斜面には甕石が置かれ、円筒埴輪が立っていたようで、今も探せばかけらを見つげることができる。秋には草刈りもされ、形もよくわかる。
＜交通＞ J R 周布駅から徒歩15分
＜いにしえ＞ 3巻P35

なぜ県外客に有名 心覚院

浜田市松原町
＜指定＞国重文・彫刻
国道9号線市役所付近から昔ながらの町並みを歩いて松原湾に向かうと、湾に面して心覚院がある。ここには鎌倉時代に作られた阿弥陀如来立像がある。高さ98cmあるヒノキ一木造りの見事な彫刻。体内に、多数の摺り仏 紙に木版でつた

仏の絵 が納められていたことでも有名。1920年には国宝に指定されたが、戦後の法改正で国の重要文化財となった。仏像彫刻としては石見地方唯一の重要文化財だ。住職のわかりやすい説明が訪れる人を満足させてくれる。駐車場は3台まで可。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス5分
市役所前下車、徒歩15分
＜連絡先＞ 0855-22-0985

迫力ある仏像に思わず息を飲む 多陀寺

浜田市生湯町
＜指定＞県・彫刻 木造天部像群）
50体もの四天王、金剛力士、十二神将たちが立ち並び、その迫力に圧倒されてしまうのが、多陀寺の木造天部像群だ。通称「流れ仏」と呼ばれる仏像群は藤原時代の作と言われ、ヒノキの一木彫りで素朴な中にも迫るような力強さが伝わってくる。長い年月を経てかなり破損もしているが、その中で27体が県の指定文化財になっている。多陀寺には幹まわりが6m以上もあるクスノキやヒノキなどの巨木もあり、また近くの展望台からは畳ヶ浦も望めるなど、自然にも恵まれた所。天部像の拝観は、寺の住職（茶円宅）に頼めば、いつでも見ることができ。＜交通＞ J R 下府駅から徒歩15分
＜連絡先＞ 0855-28-0677
＜いにしえ＞ 6巻P40

金色に輝く誕生仏が出土した寺 石見国分寺跡

浜田市国分町
＜指定＞国・史跡
国分寺とは、奈良の大仏を作らせたことで有名な聖武天皇が全国に建てさせた国立寺院のこと。石見国分寺は、現在の金蔵寺付近に建てられていた。国分寺は基本的に全国共通の造りで、金堂、七重塔、講堂、中門などが建っていた。金蔵寺境内の東南隅に土の盛り上がった所があり、近くには大きな石があることから、ここに塔が建っていたと推定される。ここからは朝鮮半島の瓦とよく似た瓦も出土しており、注目されている。「誕生仏 仏が誕生したときの像」が見つかったことでも有名。歩いて10分の所に国分尼寺跡や、国分寺の瓦

を作った瓦窯跡もある。
＜交通＞ J R 下府駅から徒歩20分
＜いにしえ＞ 6巻P33

石見地方最古の寺院 下府廃寺

浜田市下府町
＜指定＞国・史跡
石見地方に最も早く仏教が伝わった寺院の跡地。日本最古の木造建築と言われる奈良の法隆寺と同じく建てられた寺がここにあった。塔は9m四方の壇の上に建ち、心礎 塔の基礎にする石 の直径は約2.3mで、柱の太さを想像すると、りっぱな塔の姿が目に見えてくる。近くには石見国庁もあった。すぐ近くの片山古墳と一緒に散策するにはもってこいだ。
＜交通＞ J R 下府駅から徒歩25分
＜いにしえ＞ 6巻P30

中までいれる古墳 片山古墳

浜田市下府町
＜指定＞市・史跡
雑木林を看板に沿って歩くと、5分ほどで見事な横穴式石室が見えてくる。高さ1.6m、奥行き6.4mあり、内部の様子が完全に残っているのは、浜田市内ではここだけ。この石室には、俗に千年比丘尼が住んでいたという伝承もある。古墳そのものは方墳で、周囲には甕石も残っている。この地域では最も新しい17世紀ごろに造られたもので、近くにある下府廃寺の建立者との関係も考えられる注目の古墳だ。
＜交通＞ J R 下府駅から徒歩20分
＜いにしえ＞ 3巻P35

弥生人の生業がよみがえる 鰐石遺跡

浜田市治和町
1973年、周布川河口に貯木場を作る際、ここから大量の弥生土器が見つかった。その後の調査で弥生時代前期を中心に古墳時代から奈良時代にかけての生活の舞台であったことがわかった。この遺跡からは住居跡や墓が見つかったり、土器や石器がたくさん出土した。中でも石を磨いて作った剣は、とくに

優れている。今はその面影もないが、2000年前の石見の弥生人の生活に思いを馳せることができる。
＜交通＞ J R 周布駅から徒歩20分

浜田の歴史を知るならここ 浜田市郷土資料館

浜田市黒川町
浜田高校のそばにある資料館。はいてすぐ「人力車」が目にはいるが、市内の遺跡から出土した土器など、古代の遺物も展示されている。そのほか長浜人形や郷土出身作家の書画もある。ごちんまりした建物で、浜田市の歴史を概観するにはここがおすすめ。資料館駐車場は狭いが、近くの東公園駐車場（徒歩5分）が利用できる。9時から4時。月曜・祝日の翌日休館。入館無料。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス10分
国立病院前下車、徒歩3分
＜連絡先＞ 0855-23-6453

畑の中の小さな古墳 金田1号墳

金城町金田
県道金城・桜江線沿いのタバコ畑の真中に、小さな古墳が見える。横穴式石室を主体とする古墳時代後期の古墳だが、石室は埋め戻されているため見ることはできない。
＜交通＞ J R 浜田駅から車20分

金城町の歴史はここで発見 金城町歴史民俗資料館

金城町波佐
江戸時代から明治時代まで、金城町ではたたら製鉄が盛んに行われていた。この資料館は、金城町で約180年前に使っていたたたら倉（粗鋼を収納していた倉）をそのまま使用した白壁の建物だ。たたらへの復元をはじめ、製鉄関係の資料・文献を多数収蔵しているほか、町内から発掘された考古資料も展示している。9時から5時。祝日休館。大人300円、子供60円。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス30分
波佐下車すぐ
＜連絡先＞ 0855-44-0146

山村の生活がバッチリわかる 金城町民俗資料館

金城町波佐
＜指定＞国・重要有形民俗文化財（山村生活用具ほか）
和紙作りや山村の生活用具を中心とした展示。2500点以上もある山村の生活用具には、重要有形民俗文化財に指定されたものも多い。歴史民俗資料館とは国道186号を挟んだ向かい側にあり、共通券で入館できる。隣りにあるエクス和紙の館では、紙すきを体験（有料）できる。昔ながらの和紙作りを見て、そして作って楽しめる歴史体験ゾーンだ。エクス和紙の館は、月・火曜休館。300円。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス30分
波佐下車すぐ
＜連絡先＞ 0855-44-0080

ひと目でわかる山城 波佐一本松城跡

金城町波佐
波佐城山キャンプ場から続く尾根上には、あちらこちらで小さな堀や土塁を見ることができ、保存状態の良い山城跡で、中世山城の機能を詳しく知ることができる。城主や築城時期は不明だが、「萩藩閩閩録」には、1336年に起こった波佐倉合戦の記事がある。
＜交通＞ J R 浜田市駅から車30分

町を見おろす旭町のシンボル 家古屋城跡

旭町今市
旭町の中心・今市を見おろす家古屋山は、戦国時代の石見の豪族の一人・福屋氏の居城と言われている。山頂には山城を造成した跡のほか、戦時中に作られた石垣 見張り台か？がある。登山道は、定期的に草刈りが行われており、家族連れでも登れる。
＜交通＞ 中国横断自動車道旭I.C.より車10分でふもと

旭町の歴史を一目で 旭町歴史民俗資料館

旭町今市
旭町役場のそばにある。紙すき用具など町内の民俗資料を中心とした展示物のほか、近年の山ノ内梨園、浜田自動車道建設工事に伴う発掘調査のパネル展示など、新しい展示物も見られる。9時から5時。土、日曜休館。大人210円、小学生以下50円。
＜交通＞ 中国横断自動車道旭I.C.より車10分
＜連絡先＞ 0855-45-1234

山間の古墳群 山の内古墳群

旭町木田
古墳時代後期の古墳群で、梨園造成工事に伴い発掘調査が行われた。このうち14号墳は付近の木田小学校に移築復元され小型の横穴式石室を見ることができ。＜交通＞ 中国横断自動車道旭I.C.より車20分
＜いにしえ＞ 7巻P13

古墳の密集ゾーン やつおもて古墳群

旭町重富
古墳時代中期から後期の古墳群で、約20基が知られている。石見山間部では最大級の古墳密集地域。横穴式石室が多くすでに内部が開かれているものもある。近くにある和田小学校から見ると、古墳群の全体像がよくわかる。このうち18号墳は直径20mで、造り出し（出っぱった所）がついた石見山間部最大級の古墳であったが、浜田自動車道重富バスストップの建設工事によりなくなった。現在、近くの歴史公園に移築復元されている。
＜交通＞ 中国横断自動車道旭I.C.より車20分
＜いにしえ＞ 3巻P34

高速バスを降りたら、そこは古墳 ふるさと歴史公園

旭町重富
浜田自動車道重富バスストップの近くに作られた歴史公園。中には町内の古墳から出土した遺物が展示された資料館や復元された竪穴住居、古代の人びとが生活していた自然を再現した林があり散策もできる。なかでも公園近くにあった、やつおもて18号墳を移築し古墳築造時の様子を復元したエリアは見ごたえがある。石見では珍しい竪穴式石室が復元されている。無料。
＜交通＞ 中国横断自動車道旭I.C.より車20分

龍が抜け出す 正蓮寺山門

旭町木田
木田集落の南端にある古刹 古いお寺 正蓮寺には、立派な山門がある。1845年に彫師・豊原喜一郎が彫った獅子、牡丹、龍の彫刻が見られる。ことに龍は見事で、毎夜水を呑みに門を抜け出すと言われている。このほか豊原喜一郎の携わ

った山門は瑞穂町の浄蓮寺、羽須美村の西蓮寺に残されており、石見の三門と呼ばれている。
＜交通＞ J R 浜田駅から石見今市バス50分木田下車すぐ

里人に慕われた 開基の墓

弥栄村杵束
弥栄村の集落・杵束の東側にある丘陵に、石を貼った高さ3m程度の小山が見られ、頂上には石碑が建てられている。「木束開基 久昌院殿の墓」と伝えられており、詳細は不明だが、この付近の開墾・殖産に尽力した人の墓として、村人の崇拜的になっている。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス60分
下杵束下車、徒歩5分

昔・山城、今・学校 伝三隅兼春の墓・田屋城跡

弥栄村杵束
南北朝時代の石見の豪族である三隅兼連の次男・兼春の居城と言われている。現在は杵束小学校の敷地となっており、校庭の端で丘陵の北端には中世山城の堀が見られる。校庭の隅には石塔（宝篋印塔）があり、三隅兼春の墓と伝えられている。中世の墓は西方浄土（西に極楽世界がある）の考えから西向きに作る事が多いが、三隅氏の墓は東向きに作ると言われており、その様子がうかがえる。
＜交通＞ J R 浜田駅からバス60分
下杵束下車、徒歩5分



古市遺跡出土の各地の土器・陶磁器

全国の品々が集まった古市

今こそデパートや通信販売で全国各地の品物がすぐ手にはいりますが、今から1000年以上も昔はそう簡単には手にすることができませんでした。しかし浜田市上府町の古市遺跡からは、平安時代から鎌倉時代にかけての全国各地の土器が続々と見つかりました。山口や岡山、兵庫、京都、愛知、長崎、中国産の焼き物などが石見の地に持ち込まれたのです。なぜ集まったのでしょうか。焼き物が集まるということは、各地の人が集まった証拠でもあります。「古市」という名前のように、ここで「市」が開かれ商業都市の役割を果たしていたのかもしれない。また、このあたりには石見国の「国庁」があったと言われています。国の高級役人が、コレクションで高級な焼き物を集めたのかもしれない。

その一方で、この遺跡からは庶民の使う道具がたくさん見つかりました。食器や子供用のゲタ、まじないの道具など庶民の暮らしぶりが見えてくるようです。いずれにしても「古市」は、長い歴史の中でさまざまな役割を果たしてきたことは間違いのないようです。



姿を見せた古市遺跡